



# 平成 18 年度第 3 回三宅島磯根資源調査報告書

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

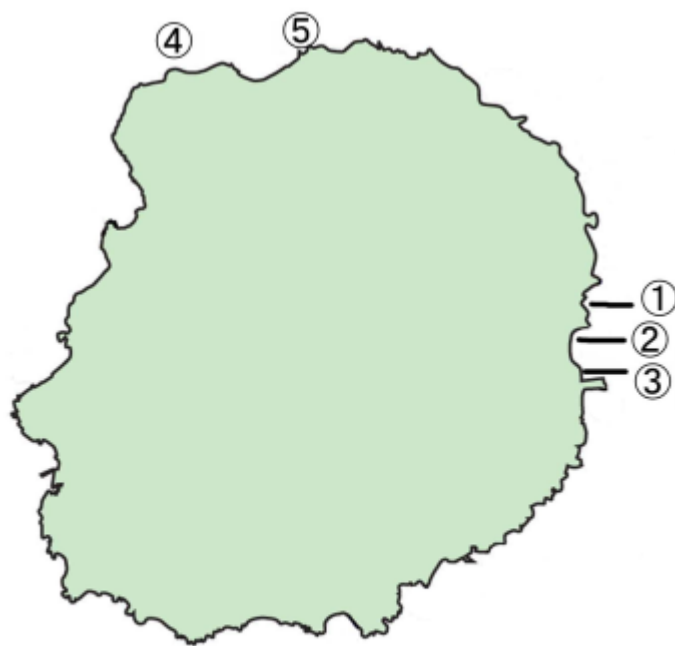
## 目的：

三宅島において、磯根漁業の産業重要種であるテングサ、サザエ、トサカノリ等の資源調査を行い、漁業者に情報を提供する。今回は三池浜周辺の調査を実施した。

調査日：平成 18 年 6 月 12 日（月）

備 船：英丸（船長：山田順一氏）

調査地点：図に示した三宅島東側のオオハシ～三池浜にかけて 3 箇所と、北側のモハナ、ジョウネの 2 箇所について行った。ただし調査した水深は 12m 以浅とした。



第 3 回三宅島磯根資源調査地点

## 調査項目：

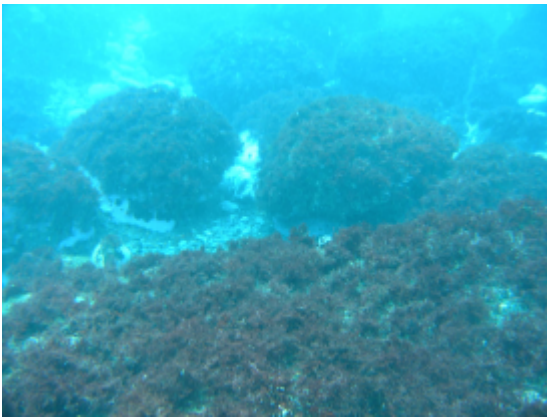
オオブサ、マクサの 0.5 m<sup>2</sup> 枠取り調査（1 × 0.5 m 枠）によって着生量を把握し、調査地点毎に作柄評価を行った。評価基準は A 級（着生量 1,000g 以上/m<sup>2</sup>）、B 級（着生量 500g 以上 1,000g 未満/m<sup>2</sup>）、C 級（着生量 50g 以上 500g 未満）、D 級（着生量 50g 未満）とした。また、枠取りでサンプリングした藻体 10 本の藻長を計測し、平均値を算出した。

## 調査結果

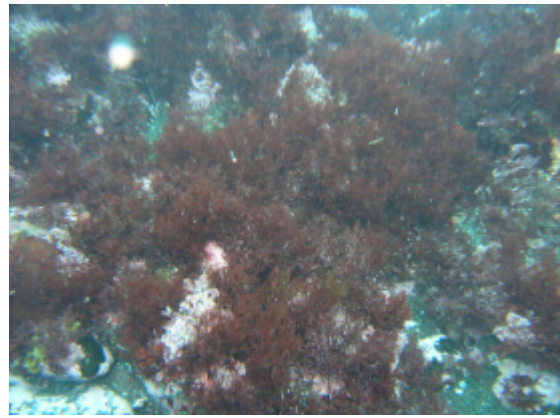
調査地点	マクサ		トサカノリ
	漁場 評価	1 m <sup>2</sup> 当たり の着生量 (g)	着 生 状 況 (ただし、水深 10m 以浅)
オオハシ	D	-	非常に少ない
三池浜北側	C	372	〃
三池浜南側	D	-	〃
モハナ	-	-	普通
ジョウネ	-	-	普通

## オオハシ～三池浜間

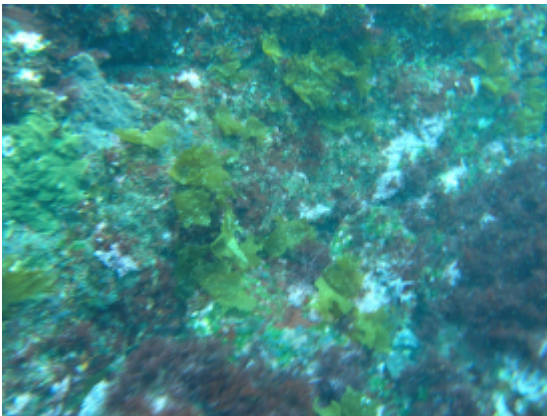
- ・テングサではオバクサが優占しており、マクサは少なかった。三池浜北側では比較的良質のマクサが生育していたが、藻長は短く、着生量も少なかった。しかしながら、マクサがほとんどみられなかった昨年までと比較すると、回復の兆しがみられた。
- ・フクトコブシはオオハシと三池浜北側で確認された。特に、三池浜北側では観察されたフクトコブシはほとんど放流貝であった。オオハシではすべて天然貝であった。
- ・三池浜北側では放流貝の割合が非常に高かったが、殻長は 5cm 未満で、昨年放流した稚貝はまだいずれも漁獲可能サイズに達していなかった。
- ・サザエは昨年この場所に多く生息していたが、今回は全く確認できなかった。
- ・アントクメは昨年同様多くみられた。
- ・トサカノリはほとんどみられなかった。
- ・オオハシ～三池浜北側までは、転石、巨岩、根石がみられたが、転石が多かった。しかしながら、オオハシでは転石は白くなっているものが目立った。これは最近までこの部分が砂で埋没していたものと考えられ、オオハシでは砂面変動が激しいことが示唆された。
- ・三池浜南側では、巨岩や大岩が多く、転石は少なかった。
- ・イセエビは散見されたが、抱卵している個体が確認された。



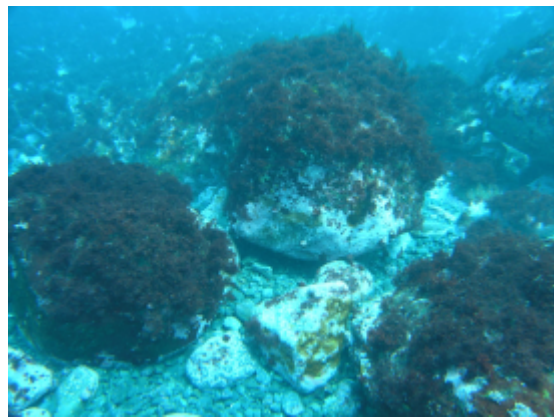
オオハシ～三池浜間はオバクサが優占していた（オオハシ）



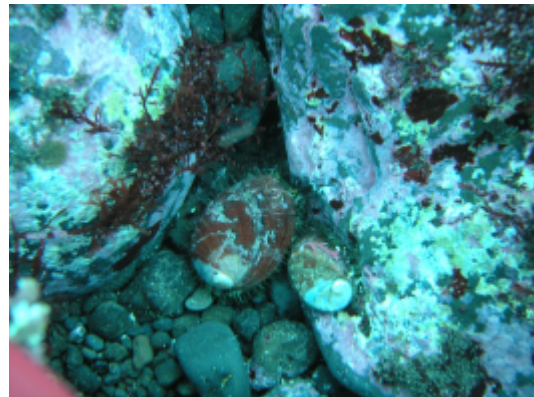
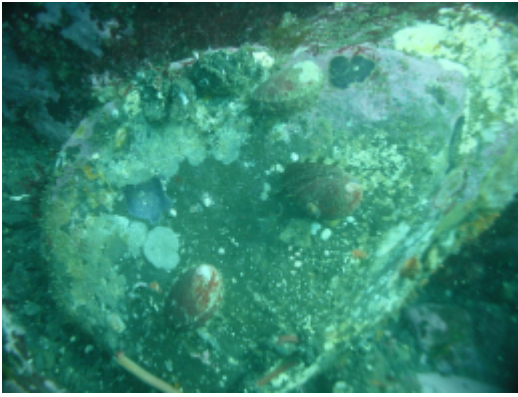
三池浜北側には良質なマクサも散見されたが、藻長は短かった。



オオハシ～三池浜北側までは、このようなアントクメが多くみられた（オオハシ）



このような岩の白い部分は、つい最近まで砂に埋没されたいと考えられた（オオハシ）



この岩の下にはフクトコブシが3個体隠れ 三池浜北側では、圧倒的に放流貝の割合が高  
ていた。いずれも放流貝ではない(オオハシ) かった(三池浜北側)



イセエビは抱卵していた(三池浜南側)

### モハナ、ジョウネ

- ・この2箇所については、トサカノリの生育状況を目視確認した。
- ・トサカノリは多くみられたが、藻長が20cm程度でやや短かった。



トサカノリアップ(モハナ)



トサカノリ(モハナ)

**調 査**：東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所  
滝尾健二  
川辺勝俊(とりまとめ)  
漁業調査指導船「やしお」小湊教行船長他乗組員6名